

簿記・会計 解説

第2問

まず資料1の取引の仕訳を行う。金額は後ほど記入を行う。

日付	借方	貸方
2日	仕入	受取手形
4日	受取手形 売掛金 発送費	売上 現金
7日	仕入	支払手形 現金
9日	売上	売掛金
11日	受取手形 売掛金	売上
12日	仕入	受取手形 買掛金
13日	買掛金	仕入
15日	当座預金	仮受金
17日	仮受金 試用仮売上	売上 試用品
19日	前払金	当座預金
21日	未着商品	前払金 買掛金
22日	仕入 売掛金	未着商品 売上
24日	積送品	仕入 現金
30日	仕入 売掛金	積送品 売上

問1

上の仕訳と勘定元帳の記入内容より

- [ア]: 4日の現金に対する勘定科目であるため、c. 発送費 が入る。
- [イ]: 15日の取引より a. 仮受金 が入る。
- [ウ]: 19日の取引より 3. 前払金 が入る。
- [エ]: 2日の取引より 0. 受取手形 が入る。
- [オ]: 22日の仕入に対する勘定科目であるため、2. 未着商品 が入る。

問2

資料2、資料3より、取引の金額を記入すると以下の通りになる。

2 日	仕入	240	受取手形	240	(仕入勘定元帳、商品有高帳)
4 日	受取手形	150	売上	270	(売上勘定元帳、受取手形記入帳)
	売掛金	[テトナ]			
	発送費	15	現金	15	(現金勘定元帳)
7 日	仕入	[クケコ]	支払手形	450	(現金勘定元帳、支払手形記入帳)
			現金	30	
9 日	売上	[カキ]	売掛金	20	(三重商店の得意先元帳)
11 日	受取手形	480	売上	810	(売上勘定元帳、 京都商店の得意先元帳)
	売掛金	330			
12 日	仕入	140	受取手形	[ニヌ]	(商品有高帳、 兵庫商店の仕入先元帳)
			買掛金	50	
13 日	買掛金	10	仕入	10	(兵庫商店の仕入先元帳)
15 日	当座預金	125	仮受金	125	(当座預金勘定元帳)
17 日	仮受金	125	売上	125	(売上勘定元帳)
	試用仮売上	125	試用品	125	(17 日の取引内容)
19 日	前払金	100	当座預金	100	(当座預金勘定元帳)
21 日	未着商品	300	前払金	100	(19 日、22 日の取引内容)
			買掛金	200	
22 日	仕入	300	未着商品	300	(仕入勘定元帳、売上勘定元帳)
	売掛金	375	売上	375	
24 日	積送品	525	仕入	500	(現金勘定元帳、仕入勘定元帳)
			現金	25	
30 日	仕入	[サシス]	積送品	525	(24 日の取引内容、売上勘定元帳)
	売掛金	640	売上	640	

・21 日の取引について

22 日の仕入勘定元帳から B 商品の仕入＝未着商品の金額が ¥300 であることが分かる。B 商品については 19 日に前払金 ¥100 を支払っているため、残りの金額 ¥200 が 21 日に呈示された荷付為替手形の金額となる。

以上の仕訳より

$$\begin{aligned} [\text{カキ}] &= 20 \\ [\text{クケコ}] &= 450 + 30 = 480 \\ [\text{サシス}] &= 525 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} [\text{テトナ}] &= 270 - 150 = 120 \\ [\text{ニヌ}] &= 140 - 50 = 90 \end{aligned}$$

次に商品有高帳の空欄を埋めていく。単価は移動平均法で求めていく。

1 日：前月繰越分は数量 10 個、単価 ¥15 より金額は ¥150

2 日：数量 20 個、単価 ¥12 金額 ¥240 の商品を仕入れた。このため

$$\text{残高数量} : 10 + 20 = 30 \text{ 個、残高金額} : ¥150 + ¥240 = ¥390$$

となるため単価は $¥390/30 = ¥13$.

4 日：数量 15 個を販売したため、払出の金額 [セソタ] は

$$15 \times ¥13 = ¥195.$$

残高は数量 15 個、単価 ¥13、金額 ¥195.

7 日：仕訳より仕入の金額は ¥480. 数量は 30 個であるため、単価は $¥480/30 = ¥16$.

残高数量：15 + 30 = 45 個、残高金額：¥195 + ¥480 = ¥675

となるため単価は $¥675/45 = ¥15$.

11日：残高分すべての商品を払い出している。数量 45 個、単価¥15、金額¥675 残高はすべて 0 である。

12日：数量 10 個、単価¥14 金額¥140 の商品を仕入れた。残高はこれらの数値である。

13日：12日に仕入れた商品から¥10 の値引きを行っている。これらは残高の金額から値引きが行われるため、

残高金額：¥140 - ¥10 = ¥130

残高の数量は変わらず 10 個であるため、残高の単価 [チツ] は

$¥130/10 = ¥13$.

問 3

受取手形記入帳で [ネ] が記入されている項目は「() 人または裏書人」となっている。このため、() 人は裏書人と同じ立場である (振出) 人が入る。

6月2日の取引の内容から [ネ] には振出人の 1 . 京都商店 が入る。

問 4

前月に試用品を発送したため、このときの仕訳は

借方：試用品 貸方：試用仮売上

となる。

また、17日の取引で発送商品のうち半分だけ買い取ることになり、売り上げに¥125 が記入されている。つまり発送した金額は $¥125 \times 2 = ¥250$ であることが分かる。以上から正しい仕訳は

1 . (借) 試用品 250 (貸) 試用仮売上 250

である。